

2040年に向けたサービス提供体制等のあり方検討会

2025 02 10

「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会（第3回）	資料8
令和7年2月10日	

認知症ケアの質の向上をさらにすすめる

ー認知症の人も家族も自分らしく生きるをサポートー



公益社団法人

認知症の人と家族の会
代表理事 鎌田 松代

「家族の会」の活動

認知症の人と家族を中心にそれをサポートする専門職などの支援者、認知症に関心を持つ人たちが会員です。認知症になったとしても同じ病の仲間やその介護者と出会い、元気や勇気を得て、希望をもって認知症とともに生きることを応援する活動をしています。全国47道府県すべてに支部があり、世界の国々とも交流し下記のような活動をしています。

【ピアサポート活動】

- 1) 認知症の人や家族が交流する“つどい”
- 2) 認知症情報や認知症の人や介護者の体験談などが掲載されている“会報”
- 3) 認知症に関する困りごとを相談できる“電話相談”



【国際交流】

- 4) 国際アルツハイマー病協会の加盟団体としてアジアの国を始め、世界の国との国際交流

【社会運動】

- 5) 社会の仕組みや制度を良くするために国への要望・提言・アピール

公益社団法人 認知症の人と家族の会 理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。

認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

沿革（結成からのあゆみ）

- 1980・・・「呆け老人をかかえる家族の会」を京都で結成：支部数7
会員数90（結成総会出席者数）
- 1982・・・厚生大臣に初の要望書提出
- 1985・・・「呆け老人と家族への援助をすすめる全国研究集会」を京都府で開催、以後
毎年実施
- 1992・・・国際アルツハイマー病協会（ADI,ロンドン）加盟
- 1994・・・厚生大臣から社団法人の許可
- 2000・・・介護保険制度開始に合わせ、全国フリーダイヤル電話相談0120-294-456）を開設
- 2004・・・国際アルツハイマー病協会第20回国際会議・京都・2004を開催。世界から4000人
以上が参加。本人が思いを語る。
「痴呆」が「認知症」と名前変更
- 2006・・・「認知症の人と家族の会」に名称変更
- 2010・・・公益社団法人に認定



沿革（結成からのあゆみ）

2013・・世界アルツハイマーデー20回記念 ライトアップ（京都タワー）を開始し翌年から徐々に増えていく。2023年は35支部86か所をライトアップ

2014・・沖縄県に支部結成、全国47都道府県に支部設置。

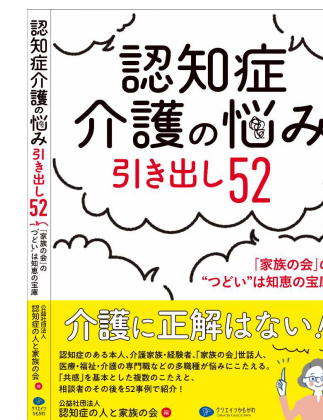
2017・・国際アルツハイマー病協会第32回国際会議・京都・2017を開催。200名 本人が参加

2018・・韓国痴呆協会と日韓交流事業を韓国で開催。

2019・・2019年には日本で2回目の交流会を開催

2020・・結成40周年、記念事業で書籍「認知症介護の悩み引き出し52 『家族の会』 “つどい” は知恵の宝庫」発刊

2025・・結成45周年を迎える



社会の仕組みや制度をよくするために国への要望・提言・アピール

提出年月	内容（抜粋）
1982. 8	ぼけ老人とその家族への援助と福祉の向上を求める要望書
1992. 8	初老期（65歳未満）の痴呆性患者および家族に関する要望書と提言
2001. 6	若年期痴呆に関する要望書
2007. 11	「提言・私たちが期待する介護保険～認知症があっても安心して暮らせる社会に向けて～」
2009.	「死なないで！殺さないで！生きよう！」リーフレット・ブックレット
2011. 4	東日本大震災及び福島原子力発電所事故の発生に関わる緊急要望書
2014. 2	介護保険を後退させないで！～安心できる介護保険を求める署名の取り組み～
2014. 5	徘徊による列車事故の社会的救済制度について申し入れ
2019・1	認知症の人の自動車運転で、誰もがつらい思いをしないために社会的支援体制の整備を
2020・3	新型コロナウイルス感染症の流行に際して、認知症の人やその家族への対応に関する緊急要請
2022. 12	安心できる介護保険制度を求める署名2022
2023. 10	「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書2023年版」 ～介護保険制度は「介護のある暮らし」を支えるために～

社会の仕組みや制度をよくするために国への要望・提言・アピール

提出年月	テーマ
1980. 12	呆け老人をかかえる家族の実態調査（第1回）
1991. 2	痴呆性（ぼけ）老人を抱える家族全国実態調査（第2回）
1991. 3	初老期（65歳未満）痴呆介護実態調査
1996. 10	ぼけ老人の徘徊に関する実態調査
1997. 10	痴呆の人の保健・医療・福祉サービスにおける「不適切と思われるケア」の実態－介護家族の立場から－
1998. 10	痴呆の人の医療・福祉のサービスにおける「拘束」の実態－介護家族の立場から－
1999. 9	痴呆性（ぼけ）老人をかかえる家族全国実態調査（第3回）
2003. 12	ぼけの人の思いを知る 第2次調査（本人に対する聞き取り調査）
2010. 9	認知症の人と家族の暮らしに関するアンケート調査（第4回 実態調査）
2018. 1	認知症の人の行方不明や徘徊・自動車運転にかかわる実態調査

社会の仕組みや制度をよくするために国への要望・提言・アピール

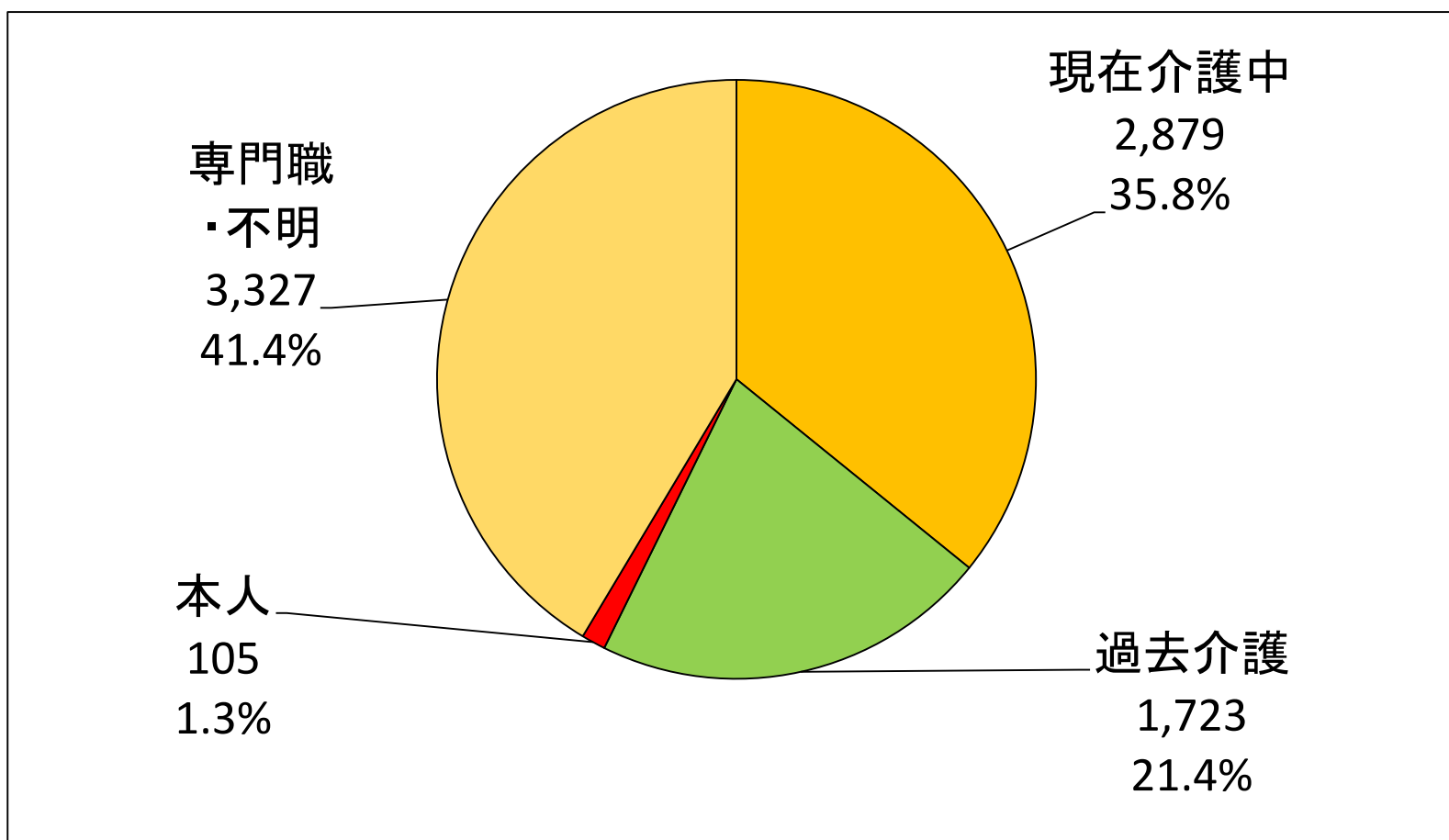
2019. 10	認知症の人と家族の思いと介護状況および市民の認知症に関する意識の実態調査（第5回）
2020. 6	認知症に関する国際交流プラットフォーム構築のあり方に関する調査研究事業
2020. 12	認知症の人と家族の思いやその状況に関する実態調査をふまえた支援のあり方に関する調査研究事業
2021. 6	認知症に関する国際交流プラットフォームの構築及び展開に関する調査研究事業
2021. 10	認知症の人と家族の支援ニーズを踏まえた介護家族支援に関する調査研究事業
2022. 11	認知症（中重度）の人の在宅生活を継続するための家族の関わり方に関する調査研究
2023. 12	認知症の人や家族のピアサポートの活動促進に関する調査研究事業

2023年3月末 9,419名

正会員 8,034名 賛助会員 1,385名

内訳：会員の状況

現在介護中2,879名、専門職・その他3,327名、本人105名、過去介護1,723名



2040年に向けたサービス提供体制等のあり方について

1. 認知症ケアの質の向上をさらにすすめる

- 1) 認知症の人やともにいる家族も自分らしく生きるをサポートするケア
- 2) ピアサポートや情報発信の充実
- 3) 認知症の人の意思決定支援の充実
- 4) ICTが得意なこと（できること）、人でしかできないことへの検討を更にすすめる
- 5) 認知症の人の心への対応は、人が中心